春・秋作馬鈴しょ栽培管理指針

芸南農業協同組合
全国農業協同組合連合会 広島県本部

（2023年） ●業務部経済課 TEL(0846)45-3360　●営農センター TEL(0846)46-1017　●安浦支所経済 TEL(0823)84-2049　●川尻支所経済 TEL(0823)87-2931

良品質・多収は土づくりから　客土、深耕の実施、完熟堆肥の補給

※必ず、生産工程管理日誌を提出しましょう。

春作（2月〜7月）

生育期：休眠期（2月）、萌芽期、萌芽始め（3月）、地上発芽（4月）、着蕾期、開花初期（5月）、開花盛期、開花末期、収穫（6月）

主な管理作業　作付体系：△種いも準備・定植準備、定植（株間30cm 2月上旬〜3月上旬）、△中耕、○土寄せ、□収穫、出荷□

基本防除／使用農薬（農薬は防除基準例を参照）

基本防除	使用農薬	散布月日
種子消毒（黒あざ病・黒あし病・そうか病）	アタッキン水和剤	／
切断刀消毒	ケミクロンG	／
粒剤植溝施用 アブラムシ類防除	アドマイヤー1粒剤	／
➡（初回防除は早めの発芽揃いで予防散布する）		
疫病防除 アブラムシ類防除	ジマンダイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	／
疫病防除 アブラムシ類防除	プロポーズ顆粒水和剤 ジェイエース水溶剤	／
疫病防除 アブラムシ類防除	ランマンフロアブル モベントフロアブル	／
疫病防除 アブラムシ類防除	フォリオゴールド ウララDF	／
ヨトウムシ類	ベネビアOD	／
疫病防除 ジャガイモガ防除	ベトファイター顆粒水和剤 ランネート45DF	／

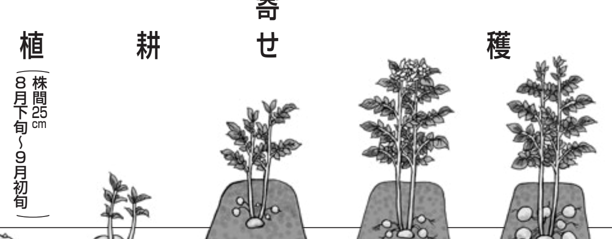
ヨトウムシ多発時はディアナSCを散布する。

※アブラムシは、収穫前まで継続して防除する。

秋作（8月〜12月）

生育期：萌芽期（8月）、萌芽始め、地上発芽、着蕾期（9月）、開花初期、開花盛期（10月）、開花末期、休眠期（11月）

主な管理作業　作付体系：◎休眠打破、△定植（株間25cm 8月下旬〜9月初旬）、△中耕、○土寄せ、□収穫、□貯蔵・出荷



基本防除	使用農薬	散布月日
種子消毒（黒あざ病・黒あし病・そうか病）	アタッキン水和剤	／
切断刀消毒	ケミクロンG	／
粒剤植溝施用 アブラムシ類防除	アドマイヤー1粒剤	／
➡（初回防除は早めの発芽揃いで予防散布する）		
疫病防除 アブラムシ類防除	ジマンダイセン水和剤 モスピラン顆粒水溶剤	／
疫病防除 アブラムシ類防除	プロポーズ顆粒水和剤 ジェイエース水溶剤	／
疫病防除 アブラムシ類防除	ランマンフロアブル モベントフロアブル	／
疫病防除 アブラムシ類防除	フォリオゴールド ウララDF	／
ヨトウムシ類	ベネビアOD	／
疫病防除 ジャガイモガ防除	ベトファイター顆粒水和剤 ランネート45DF	／

ヨトウムシ多発時はディアナSCを散布する。

※アブラムシは、収穫前まで継続して防除する。

※高温乾燥が続く場合、ダニ類の防除を行う。

ダニ類の防除については指導販売課にお問い合わせください。

◉土づくり対策（10aあたり）

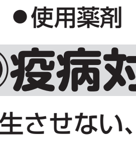
○完熟堆肥の補給		○そうか病対策・高pH圃場	
牛フン	1,000kg	畑のカルシウム	100kg
こだわり健肥	1,000kg	硫マグ	40〜60kg
豊穣	1,000kg	土壌改革（微粉硫黄）	20kg
発酵トンプン	150kg	ガッテンペーハー	50kg

〜土壌診断を活用した施肥例（10a当り）〜

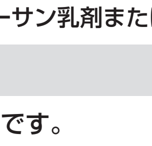
こだわり健肥	1,000kg	完熟堆肥の施用で病害の発生しにくい圃場づくり
畑のカルシウム	100kg	pHを上げずに石灰分の補給と吸収のよいカルシウム効果でイモの健全化
硫マグ	40〜60kg	pHを上げずに苦土分の補給
アヅミン	40〜80kg	腐植酸の補給による保肥力の向上

※施肥量は土壌診断の結果に基づいて、施用してください。

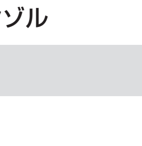
◉効果的な除草手順



① 植付
植え付け時には、十分な深度を確保してください。



② 覆土
塊茎が露出しないように、ていねいに覆土してください。



③ 散布
雑草の発生前に散布してください。

●使用薬剤（例）ゴーゴーサン乳剤またはダイロンゾル

◉疫病対策

発生させない、予防が重要です。

① 萌芽そろい期⇒ジマンダイセン水和剤又はペンコゼブ水和剤
② 着　　蕾　期⇒プロポーズ顆粒水和剤又はフェスティバル水和剤
③ 土 寄 せ 期⇒ランマンフロアブル⇒フォリオゴールド⇒ベトファイター顆粒水和剤

◉施肥基準例（10aあたり）
※秋作は生育を見ながら必ず追肥を行う。

区分	肥料名	総量	元肥	追肥	20kg（袋数） 元肥	20kg（袋数） 追肥	成分量 N	P	K
一般圃場①	広島馬鈴しょ有機特号（9. 8. 10）	110	110		5.5		14.1	12.4	16.4
	馬鈴しょ化成S30（7. 6. 9）	60		60		3			
一般圃場②	馬鈴化成888（8. 8. 8）	130	130		6.5		14.6	14.0	15.8
	馬鈴しょ化成S30（7. 6. 9）	60		60		3			
一般圃場③	グリーンドクター2号（9. 7. 7）	110	110		5.5		14.1	11.3	13.1
	馬鈴しょ化成S30（7. 6. 9）	60		60		3			
マルチ栽培	広島馬鈴しょ有機特号（9. 8. 10）	140	140	－	7	－	12.6	11.2	14.0

○砂質土、客土畑については元肥、追肥とも1割増で施用。○水田への植付については元肥につき1割減で施用。

◉病害虫防除基準例

病害虫名	RACコード	農薬名	濃度	安全使用基準 収穫前日	安全使用基準 回数	効果 予防	効果 治療	注意事項
疫病	M3	ジマンダイセン水和剤※	500倍	7	10	○	×	ジマンダイセン水和剤・ペンコゼブ水和剤は発病前予防のみで使用する。
	M3	ペンコゼブ水和剤※	500倍	7	10	○	×	
		（※は同一成分）						
	21	ランマンフロアブル	1,000倍	7	4	○	○	●着蕾期・開花期（気温20度）頃から急激に多発するので葉裏まで十分散布する。
	40,M5	プロポーズ顆粒水和剤	1,000倍	7	3	○	○	
	40	フェスティバル水和剤	2,000倍	14	3	○	○	●疫病発生前の予防散布が最も重要
	4,M5	フォリオゴールド	1,000倍	7	3	○	○	
	27,40	ベトファイター顆粒水和剤	2,000倍	7	3	○	○	
アブラムシ類	4A	アドマイヤー1粒剤	4kg/10a	植付時	1			●採種地区はアブラムシ初期防除に粒剤を使用する。
	1B	ジェイエース水溶剤	1,000倍	30	2			●粒剤は植溝に施用し、土壌混和後植付する。
	9B	コルト顆粒水和剤	5,000倍	前日	3			●着蕾期・開花期頃発生最盛期となるので葉裏まで十分かかるよう散布する。
	29	ウララDF	3,000倍	7	2			●初期防除に努める。
	4A	アドマイヤー水和剤	1,000倍	14	2			
	23	モベントフロアブル	4,000倍	7	3			
	3A	テルスター水和剤	1,000倍	3	4			
	3A	トレボン乳剤	1,000倍	7	3			
	1A	オリオン水和剤40	1,000倍	前日	5			
ケラ ネキリムシ	1B	ダイアジノン粒剤5	4〜6kg/10a	植付時	1			●植付前土壌混和する。
ヨトウムシ類	28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	前日	2			●発生初期の防除に努める。※同系剤となるので、左記剤の連続散布はさける。
	28	ベネビアOD	4,000倍	7	3			
	5	ディアナSC	3,000倍	前日	2			
ジャガイモガ アブラムシ類	4A	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7	3			●ジャガイモガへの使用は、発生初期のみ。多発時は使用しない。
	1A	ランネート45DF	1,000倍	7	5			●ジャガイモガの春作後半の異常発生に注意する。
そうか病	25,1	アタッキン水和剤	40倍	植付前	1			●種いもを10秒間浸漬する。
	29	フロンサイド粉剤	30〜40kg/10a	植付前	1			●全面散布し、土とよく混和する。
		ソイルサプリエキス	4倍	植付前	-			●定植直前に浸漬し、直射日光を避け、風乾する。
切断刀消毒		ケミクロンG	10倍	切断時	-			●5秒間切断刀浸漬する。
		熱湯消毒	―	切断時	-			●75℃以上で5秒間浸漬する。
霜対策		トレエース	500倍	発芽時	-			●低温が予想される2〜3日前ハンドスプレー等で散布

◉除草剤使用基準例

薬剤名	使用時期	濃度	使用方法	使用回数
トレファノサイド粒剤2.5	植付後萌芽前	4〜5kg／10a	全面土壌散布	1
ゴーゴーサン乳剤	植付後萌芽前	300mℓ/100ℓ水で溶く	全面土壌散布	1
ダイロンゾル	植付後萌芽前	200mℓ/100ℓ水で溶く	全面土壌散布	1
プリグロックスL	萌芽直前	600mℓ/100ℓ水で溶く	雑草茎葉散布	2

◎使用農薬・散布日を必ず記録しましょう。　◎農薬安全使用基準を守りましょう。（詳細は、普及員、技術員又は農協へお問い合わせください。）
◎農薬は専用保管庫に入れて管理しましょう。　◎他の作物にかからないよう散布しましょう。